

薩摩青雲丸

指導教官

遠洋航海終了！いざ、内航へ

船乗りの試練

三六〇度見渡す限り海。枕崎を出港して一夜が明け船外に出ると昨日までとは一変して島影一つ見えず、辺り一面が海。海・海！の海に囲まれた景色が目に入る。遠洋航海が始まったと実感する瞬間でもある。ここから約一カ月間に渡り遠洋航海実習が続き、三十一名の生徒が協力しながら二月十六日の枕崎港入港を目指します。

一月二十三日、枕崎港出港後、青雲丸は順調に漁場へ向け航海を進め、一月二十六日にはマグロ延縄実習以下操業が始まりました。

漁場までの三日間、海は風れていると言いが大海原を進む船は揺れている。よく今日は「時化ている」・「風がきている」などと言葉を聞くが、それは経験豊富な船乗りのさじ加減である。笑。そんな中、生徒たちを待ち受けていたのは、やはり船酔いです。

多くの生徒が船酔いに苦しみながら当直や作業などその日割り当てられた業務を遂行していきます。また、船酔いは船乗りを目指した以上避けて通れぬ道でもあります。一日で慣れる生徒、そうでない生徒、様々です。今回は枕崎出港から操業開始まで日も浅く、また、操業中も波が高く時化が続く日が度々、全員が船酔いを克服するまでに二週間余りかかりましたが、慣れたら船酔いの苦しみは嘘のように、何事も無かったかのように笑顔が溢れる通常生活を送っていました。全員が船酔いを克服し船乗りへの大きな一歩を踏み出しました。

操業海域 フィリピン北東海域

操業回数十三回、漁獲数約四トン

操業体験記(抜粋)

麟太郎「こんな何も無いところにマグロがいることにビックリした。

漣「魚体整理でトランシーバーで連絡が早口になって難しかった。

優仁「マグロが沢山釣れてうれしかった。魚の血抜きなどの作業が早くかかったよよかった。

獅龍「思っているより大変な仕事だと分かった。マグロ漁船に乗りたいたいで経験をいかしたい。

遥斗「マグロを獲得までの流れを学ぶことができた。大きい魚が釣れた時はテンションが上がった。

更煌「操業を通して、普通の高校では絶対にできない経験ができた。

莉久斗「想像よりも沢山釣れてとても驚いた。

瑠晴「回数をこなすうちにできることが増え楽しかった。

伊吹「魚体整理で釣れた魚に触れることが楽しかった。

咲偉「大変だったが他ではできない体験ができた。冷凍室ではバニックになったら危なそうでした。

理人「とても良い経験ができました。将来の道を選ぶ材料として学びになりました。

優悟「大きなマグロが釣れてよかったです。専攻科生に教えてもらいながらスムーズに作業ができました。

愛輝「思っていたよりマグロが多く釣れた。

翠憲「大きくて迫力のある魚が次々と揚がってきて、あつという間に時間が過ぎていった。

陽太「休む暇もないすごく大変な仕事だと感じた。

竜久「マグロの大きさ、冷凍室のすごさなどにビックリした。

晴人「運動不足で揚縄のときしんどかった。

星空「操業を通して、今まで習った知識や技術の大切さがわかった。

揚縄作業

投縄で仕掛けたブランを一本一本括り、十三本一組で縛ります。揚縄では手袋を三枚重ねて作業するので、素手とは感覚も違います。最初は時間もかかりましたが、専攻科生や乗組員に丁寧な教わりながら徐々に速さ、正確性がついてきました。



魚体観測

釣り上げられた魚はデッキ上で、体長・重量・生殖腺等の項目を観測し、ブリッジ(船橋)にいる記録班にトランシーバーで連絡します。釣り上げられた全ての魚を観測記録し水産庁へ提出します。魚の名前やトランシーバーの使い方など、専攻科生に協力を貰いながら二匹二匹丁寧に観測していきます。



投縄作業

投縄作業ではブランをコンベアに並べていきます。ただ並べるだけではなく、コンベアの送り出す速度に遅れないよう、また、ブランに異常がないか確認しながら作業をします。



瓶玉整理

瓶玉整理では、揚縄により回収されたブランや瓶玉(浮玉)を翌日の投縄作業に備えて船尾甲板に収納します。専攻科生とペアで取組み、揺れの中ではバランスも取りづらく大変な作業です。

